



発行所
十勝毎日新聞社
©十勝毎日新聞社 2007
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
TEL(代表)0155-22-2121
TEL 編集局 0155-22-2121
集 告 局 0155-23-2323
編 集 局 0155-24-2222
販 売 局 0155-22-7555
広 販 業 局 0155-24-2299
事 務 局 0155-24-2299

地域間競争を勝ち抜く、十勝の生き残りの戦略を探ってきた2007年間キャンペーン「まちの力」。最終部では、全編に共通する発展のキーワード「あるもの探し」を、取材班が十勝で実践。見つけた発展の可能性に、識者の見解と少しの「夢」を添えて紹介する。

あるもの探し 十勝で見る夢

1.



NPO法人「北海道宇宙科学技術創成センター」(HASTIC)「札幌」の伊藤一 副理事長(北大名誉教授) 写真真実は、来るべき宇宙時代に向けた課題として伊藤氏は提言する。「2020年代には交通手段として、道東海岸部、中でも「宇宙のまじり」を進める大樹町が持つ可能性を評価する。未来の夢でなく、近い将来の課題として伊藤氏は提言する。「2020年代には交通手段として、道東海岸部、中でも「宇宙のまじり」を進める大樹町が持つ可能性を評価する。未来の夢でなく、近い将来の課題として伊藤氏は提言する。」

2020年代に
ロケット交通時代



年間キャンペーン最終部

大樹から宇宙旅行

地球規模の3つ星観光地

「先進米国」に次ぎ
「日本十勝発」

宇宙先進国のアメリカでは、今、スペースシャトル後をにらみ、商業宇宙旅行や宇宙往還用の有人宇宙船から、滞在用の宇宙ホテルまで、民間企業による開発競争が過熱している。HASTICが業務提携する「ロケットブレン・グローバル社」は現在、6人乗りの乗客5人の有人宇宙船「ロケットブレンXP」を開発中で、2010年までの商業飛行開始を目指す。

「ロケットブレン」は現在、6人乗りの乗客5人の有人宇宙船「ロケットブレンXP」を開発中で、2010年までの商業飛行開始を目指す。

地域を見るにも40、45度が一番、サボットする技術力考は、大樹しかない」



2000万円をポンと出せるような、世界中的「お金持」が宇宙旅行を求めて十勝に来た。ロケットも滞在する。及ぼされる経済効果もまた、計り知れない。

銀河の森大文台 世界認知の施設

HASTICが結ぶ大文台や民間企業など、宇宙時代に向けた研究・技術力も高める北海道十勝にも、世界規模で認知される研究施設がある。

大樹から宇宙へ。夢物語は実現へと着実に歩みを進めている。北海道を核とするXP機「イメージイラストラ」C AMUハブ「ロケット」実験飛行船、飛行船格納庫、上空から見た大樹の滑走路(中央上から時計回り)

所と国立環境研究所の付属施設も併設する。

主に成層圏 対流圏の大気やオーロラ観測、研究を行なうアンの重要観測地であり、昨年には同町内に極東初の「短波ドップラー・レーダー」のアンテナを設置。人工衛星計器故障や航空機の通信障害などを招く超高度大気の状態変化を継続的に監視している。田中芳美副町長は「専門家が地元住民の交流も生まれ、「観光」「研究」の両分野が融合した相乗効果がある」と今後の整備に期待する。

「町だけでなく、十勝全体にとって大きな効果がある。大樹町の伏見悦夫町長は、航空宇宙産業の基礎実験に貢献してきたこれまでの取り組みの先に、次のステップが来る」と信じている。十勝が宇宙ホテルの玄関口になる日も、夢物語ではない。(小林祐二、丸山一樹)